

農林水産祭



— 2025.3 —

第63回 農林水産祭式典

令和6年度（第63回）農林水産祭式典は、令和6年11月23日（土）に明治神宮会館において、各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者、農林水産祭参加行事において農林水産大臣賞を受賞した優秀農林水産業者等約650名の方々が参加して行われました。

式典は、江藤拓農林水産大臣の主催者挨拶の後、農産・蚕糸部門天皇杯受賞者の（株）イカリファーム代表の井狩篤士氏が生産者を代表して、明治神宮総代の岩沙弘道氏が消費者を代表して、それぞれ収穫感謝の言葉を述べられ、次いで選賞審査報告と天皇杯等の授与、ご来賓の紹介、祝電の披露等が行われ、最後に明治神宮の木下龍輝権宮司の万歳三唱により閉幕しました。

農林水産大臣挨拶（要旨）

本日ここに、受賞者をはじめ、多くの皆様方に御出席を賜り、令和6年度の農林水産祭式典を盛大に開催できますことを、心からお慶び申し上げます。

はじめに、今年度、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞を受賞された24名の皆様方、このたびは、誠におめでとうございます。

また、ご本人はもとよりご本人の御活躍を支え、あるいは御苦勞をともにされてこられた皆様方にも、心からお祝い申し上げます。

農林水産祭は、国民の農林水産業に対する認識を深め、農林水産業者の技術改善及び経営発展意欲の向上を図るため、昭和37年に第一回が開催されました。

以来、それぞれの時代と地域をリードする全国各地の、特に優れた農林水産事業者を見出しつつ、現在では、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産などの7つの分野で表彰を行っています。

本日、三賞を受賞された皆様方におかれましても、これまで現場の最前線に立ち、

- ・先進的な営農体系の確立による、「生産性の向上」
- ・最新技術の導入等による、「就労環境の改善」
- ・他産業との連携を通じた、「経営の多角化」

などに果敢に取り組まれ地域の農林水産業や農山漁村の発展に多大なる貢献をされてきました。

改めて皆様方に対し敬意を表するとともに、今回の受賞を機に、より一層活躍されることを御期待申し上げます。

農林水産業は、国民への食料供給は言うまでもなく地域経済、地域社会の活力の維持にも大きな役割を果たしており、国民生活にとって不可欠な重要な産業であります。

農林水産大臣を拝命している私としても、本日の受賞された方々の取組から大いに学びながら、皆様とともに皆様がやりがいと希望、そして将来の夢を持って働ける農林水産業、農山漁村の実現に向け全力で取り組んでまいります。

結びに、本日御出席の皆様方と全国の農林水産業に携わる方々の益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



江藤 拓 農林水産大臣

《収穫感謝の言葉》



生産者代表
農産・蚕糸部門天皇杯受賞
(株)イカリファーム 井狩 篤士氏



消費者代表
明治神宮総代
岩沙 弘道氏

農林水産大臣 江藤 拓

選賞審査報告

選賞審査報告を申し上げます。

農林水産祭中央審査委員会では、昨年7月から本年6月までの1年間に、全国各地で開催されました277の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞されました463点を対象として、書類審査および現地調査を行いました。その結果、7部門において、それぞれ天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の三賞の受賞者を決定いたしました。

また、「女性の活躍」について、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の二賞を選考いたしました。

受賞者の方々の業績のうち、私からは、天皇杯受賞者の方々について、特筆すべき点をご報告申し上げます。

農産・蚕糸部門の滋賀県の株式会社イカリファームは、稲・麦・大豆の生産から流通・販売までを手掛けており、担い手不足の農地を積極的に受託しています。パン用小麦の生産販売では、近隣農家の小麦を含め、ロットごとの成分分析を基に製粉会社の求める品質にブレンドするなど、学校給食や大手コンビニエンスストアから商品の原料として高い評価を得ています。それにより、所得向上を実現し、県内学校給食用のパンに使用される小麦は100%県内産に切り替わりました。5年ごとの売上や社員数などの目標を社員と共有するとともに、女性社員の能力を活かしてパスタや菓子等の加工品の開発、農業体験イベントを行うほか、労働環境の整備を行い、女性の活躍の場を積極的に創出しています。

園芸部門の福島県の「JA 会津よつば昭和かすみ草部会」は、豪雪地帯という特徴を活かし、雪を利用した集出荷貯蔵施設の機能強化や地理的表示制度の登録などにより、品質向上や安定出荷体制の構築を通じてブランド力や信頼向上を獲得し、夏秋期の生産量日本一を誇っています。また、栽培技術の修得と部会員や地域住民とのネットワーク構築を支援することで、県内外から新規就農希望者を継続的に確保しており、地域の活性化に大いに貢献しています。

畜産部門の山形県の株式会社蔵王ファームは、肉用牛生産から加工・販売まで行う大規模な繁殖肥育一貫経営です。飼育牛のすべての情報をクラウド上で一元管理することで、高い子牛生産率や和牛上物率を達成するとともに、地域の飼料用米やエコフィードをTMR飼料に調製し、飼料費を県平均と比較して3割以上削減しています。すべての農場で農場HACCPを取得するとともに、飼料への抗生剤等を無添加、アニマルウェルフェアを重視した飼養管理等を通じ、全頭を安全で安心なブランド牛肉として販売しており、我が国の肉牛経営の模範となっています。

林産部門の神奈川県株式会社T-FORESTRYは、代表が保有する森林をレクリエーションのための活動空間として活用するため、平成22年に設立されました。森林資源と都市近郊かつ観光地に隣接した立地を活かし、フォレストアドベンチャーなどで年間2万人が訪れる人気スポットになっています。木材販売による収入が少ないなかでも、森林空間を利用することで収入を確保し、林業経営の安定性と持続性を高める先進事例として注目されています。

水産部門の北海道の中辻清貴さんは、利尻コンブの安定的な生産を目指し、大型乾燥施設での効率的な機械乾燥技術を導入しました。その結果、天候に左右されない作業が可能となり、コンブの品質を低下させる付着生物の被害を軽減する水揚げの早期化と、収穫期間の明確化による人員確保の安定化、鳥のフン害防止などに繋がりました。今後、当該地域を中心に中辻さんが活用している技術の普及が期待されます。

多角化経営部門の長野県の株式会社なかひら農場は、リンゴ生産、観光農園、ジュース加工による多角化を進め、リンゴ経営では全国的にも有数の売上を誇る経営体です。リンゴ生産では、地元企業と連携して開発した活力剤や自社工場の残渣を堆肥化し、それを活用することで農薬や化学肥料を削減しています。また、加工部門は、他社製品との差別化のためメーカーと一緒に機械の共同開発を行うとともに、顧客のニーズに応えられるようジュースやスムージーなど40種類以上の商品を製造し、OEM生産や加工受託を行っています。これにより施設の稼働率が向上し、地元産の果実や野菜の利用、さらには雇用の創出を通じて、産地や地域の維持に貢献しています。

むらづくり部門の島根県のえーひだカンパニー株式会社は、地域が消滅し兼ねないとの危機感からアンケートや度重なるワークショップを開催し、それを基に作成した「比田地域ビジョン」を実現するための組織として、平成28年に設立、翌29年に株式会社化しました。高齢化で作付けが困難となった農地での稲作やドジョウの養殖、ドローンやリモコン除草機による作業受託、比田米のブランド化、米ビールなどの加工品の開発、農産物直売所とカフェの運営などに取り組んでいます。また、高齢者対策としてデマンド交通の運営、見守りを兼ねた移動販売車の運行を行うなど、「生産機能」と「自治機能」を両輪とする事業を展開しており、むらづくりの全国的なモデル事例となっています。

内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞につきましても、「女性の活躍」による受賞を含め、それぞれ素晴らしい取組をなされている皆様方が受賞されました。

本日、受賞されました方々に心からお祝いを申し上げますとともに、こうした方々の先進的な取組が全国に普及し、日本の農林水産業がさらに活性化することを祈念致しまして、審査報告といたします。



農林水産祭中央審査委員会
会長 伊藤 房雄 氏

天皇杯等三賞の表彰

天皇杯は、7部門の受賞者に対し江藤農林水産大臣から表彰状が、林良博（公財）日本農林漁業振興会会長から天皇杯が授与されました。引き続き、内閣総理大臣賞は、江藤農林水産大臣から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与され、日本農林漁業振興会会長賞は、林会長から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与されました。



表彰式の様子



天皇杯



内閣総理大臣賞



日本農林漁業振興会会長賞

ご来賓の祝辞、祝電等

天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の授与後に、内閣総理大臣 石破茂様からのメッセージと衆議院議長 額賀福志郎様、参議院議長 関口昌一様からのご祝電の披露がありました。また、多数のご祝電の紹介をいたしました。

農林水産大臣と三賞受賞者等との懇談会

式典終了後、農林水産大臣等と三賞受賞者の皆様との懇談会が行われました。

懇談会では、まず、滝波宏文副大臣のご挨拶の後、受賞者を代表して各部門の天皇杯受賞者から受賞のお礼や今後の抱負等についてお話があり、その後、江藤農林水産大臣から受賞者に対してお祝いのお言葉を頂きました。



懇談会の様子

天皇杯等三賞の選賞

令和6年度の天皇杯等三賞（天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞）の選賞審査は、7月1日（月）に開催された農林水産祭中央審査委員会第1回総会を皮切りに、経営（兼多角化経営）、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、むらづくりの各分科会において行われました。令和5年7月から令和6年6月にかけて全国で開催された277の農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞された優秀農林水産業者463点（団体、夫婦連名を含む）を対象に、部門毎に書類審査と現地調査による厳正な審査が行われ、10月1日（火）の中央審査委員会第2回総会において決定され、同2日（水）農林水産省 Web サイトで公表されました。



農林水産祭中央審査委員会第2回総会

天皇杯等三賞選賞の結果

	部門	出品材	受賞者		表彰行事
			住所	氏名等	
天皇杯	農産・蚕糸	経営 (水稲、麦、大豆)	滋賀県 近江八幡市	株式会社イカリファーム (代表 井狩 篤士)	令和5年度全国優良経営体表彰
	園芸	経営 (宿根かすみそう)	福島県大沼郡 昭和村	JA 会津よつば 昭和尚すみ草部会 (代表 立川 幸一)	第53回日本農業賞
	畜産	経営 (肉用牛一貫)	山形県南陽市	株式会社蔵王ファーム (代表 高橋 勝幸)	令和5年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林産	経営 (林業経営)	神奈川県 小田原市	株式会社 T-FORESTRY (代表 辻村 百樹)	全国林業経営推奨行事
	水産	経営 (漁業経営改善)	北海道利尻郡 利尻町	中辻 清貴	第29回全国青年・女性漁業者交流大会
	多角化経営	経営 (リング6次産業化)	長野県下伊那郡 松川町	株式会社なかひら農場 (代表 中平 義則)	令和5年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり活動	島根県安来市	エーひだカンパニー株式会社 (代表 川上 義則)	第46回豊かなむらづくり全国表彰事業
内閣総理大臣賞	農産・蚕糸	経営 (大豆)	熊本県熊本市	農事組合法人秋津菅農組合 (代表 上田 德行)	第52回全国豆類経営改善共励会
	園芸	経営 (スプレーギク)	愛知県豊川市	山田 裕也	第33回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール
	畜産	経営 (酪農)	群馬県前橋市	須藤 晃* 須藤 淳子*	第53回日本農業賞
	林産	技術・ほ場 (苗ほ)	北海道広尾郡 広尾町	惣田 政宏	令和5年度全国山林苗畑品評会
	水産	経営 (地域活性化)	長崎県雲仙市	株式会社天洋丸 (代表 竹下 千代太)	第29回全国青年・女性漁業者交流大会
	多角化経営	経営 (水稲、スプレー菊)	宮城県栗原市	有限会社川口グリーンセンター (代表 白鳥 正文)	第53回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり活動	青森県北津軽郡 中泊町	中泊町農産物加工販売施設出荷者協議会 (代表 田中 恵津子)	第46回豊かなむらづくり全国表彰事業
	女性の活躍	経営 (ベビーリーフ)	熊本県上益城郡 益城町	株式会社みっちゃん工房 (代表 光永 カオリ)	令和5年度全国優良経営体表彰
日本農林漁業振興会会長賞	農産・蚕糸	産物 (茶(蒸し製玉緑茶))	佐賀県嬉野市	三根 孝之	第77回全国茶品評会
	園芸	経営 (ぶどう)	岡山県加賀郡 吉備中央町	JA 岡山加茂川ぶどう部会 (代表 瀬尾 和弘)	第53回日本農業賞
	畜産	技術・ほ場 (飼料生産部門)	広島県三次市	広島県酪農協同組合 (代表 温泉川 寛明)	第10回全国自給飼料生産コンクール
	林産	経営 (林業経営)	静岡県静岡市	山田 芳朗	全国林業経営推奨行事
	水産	産物 (水産加工品)	山口県萩市	有限会社三好蒲鉾 (代表 三好 忠之)	第75回全国蒲鉾品評会
	多角化経営	経営 (そば、加工用トマトほか)	長野県松本市	株式会社かまくらや (代表 藤本 孝介)	第53回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり活動	茨城県石岡市	特定非営利活動法人アグリやすと (代表 柴山 進)	第46回豊かなむらづくり全国表彰事業
	女性の活躍	経営 (水稲)	岡山県赤磐市	株式会社穂々笑ファーム (代表 堀内 由希子)	第63回岡山県農林漁業近代化表彰

(注) 氏名等の欄に*を付したのは、夫婦連名で表彰するもの。

優秀農林水産業者に係るシンポジウム

農林水産祭では、天皇杯等三賞受賞者の業績を広く普及することを目的として、例年、東京都内及び地方において、シンポジウムを開催しています。

都 内 開 催

【テーマ：香りの強いユズの特徴をいかした先駆的な6次産業化の実施】（第37回）

令和6年5月17日（金）に東京都中央区の紙パルプ会館フェニックスホールにおいて、令和5年度多角化経営部門で天皇杯を受賞された馬路村農業協同組合の業績を取り上げて、シンポジウムを開催しました。

農林水産省技術会議事務局の島津久樹技術政策情報分析官のご挨拶のあと、農林水産祭中央審査委員会経営分科会の納口るり子主査による選賞審査報告、馬路村農業協同組合の木下彰二専務理事による業績発表があり、引き続き、納口主査の進行により、中央審査委員会の西山未真、山田敏之両専門委員並びに高知県中央西農業振興センター農業改良普及課の中野和彦専門員のパネリストを加えて意見交換や参加者との質疑応答が行われました。シンポジウムは、行政関係者、農林関係団体、関連企業等など50名を超える方の参加の下、実施されました。

（このほか、Web配信では50名を超える方にご視聴頂きました。）



業績発表の様子



木下 彰二氏



納口 るり子 主査



パネルディスカッションの様子

シンポジウム出席者（敬称略）

区 分	氏 名	所属・職名等
業績発表者	木下 彰二	令和5年度農林水産祭多角化経営部門天皇杯受賞者 馬路村農業協同組合代表理事専務
コーディネーター 及び選賞審査報告	納口るり子	農林水産祭中央審査委員会経営分科会主査 (筑波大学名誉教授)
コメンテーター	西山 未真	農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員 (宇都宮大学農学部教授)
コメンテーター	山田 敏之	農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員 (こと京都株式会社代表取締役)
コメンテーター	中野 和彦	高知県中央西農業振興センター農業改良普及課専門員
挨拶	島津 久樹	農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課 技術政策情報分析官
司会・進行	小栗 邦夫	(公財)日本農林漁業振興会 常務理事

地 方 開 催

【テーマ：88のアイデア実現を目指して、「え〜ひだ」を創るカンパニー】（第38回）



左 田邊 裕子 氏
右 野尻ちさと 氏

令和7年2月19日（水）に鳥根県安来市の安来市総合文化ホールにおいて、令和6年度むらづくり部門で天皇杯を受賞された（株）えーひだカンパニーの業績に関するシンポジウムを開催しました。

中国四国農政局の古賀徹次長、鳥根県知事（代読）、安来市の田中武夫市長のご挨拶の後、中央審査委員会むらづくり分科会の市田知子主査による選賞審査報告、えーひだカンパニーの田邊裕子、野尻ちさと両取締役による業績発表に引き続き、市田主査の進行により、コメンテーターと業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答などが行われました。

シンポジウムには、140名を超える皆様にご参加いただきました。（このほか、Web配信では、約80名の方にご視聴頂きました。）



パネルディスカッションの様子

シンポジウム出席者（敬称略）

区 分	氏 名	所 属 ・ 職 名 等
業績発表者	田邊 裕子	令和6年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞 えーひだカンパニー株式会社取締役
	野尻ちさと	令和6年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞 えーひだカンパニー株式会社取締役
コーディネーター 及び選賞審査報告	市田 知子	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査 (明治大学農学部専任教授)
コメンテーター	畠山 智之	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会委員 (NHK財団 専門委員 元 NHK アナウンサー)
コメンテーター	田中 武夫	安来市長
コメンテーター	保永 展利	鳥根大学学術研究院農生命科学系准教授
挨拶	古賀 徹	農林水産省中国四国農政局次長
	丸山 達也 (代読：原 幸生)	鳥根県知事 (農林水産部次長)
	田中 武夫	安来市長
司会・進行	小栗 邦夫	(公財) 日本農林漁業振興会 常務理事

【テーマ：「経営改善」の軌跡とパン用小麦の拡大に向けて】（第39回）



井狩 篤士・史子
ご夫妻

令和7年2月27日（木）に滋賀県大津市の琵琶湖ホテルにおいて、令和6年度農産・蚕糸部門で天皇杯を受賞された（株）イカリファームの業績に関するシンポジウムを開催しました。

農林水産省の島津久樹技術情報政策分析官、滋賀県の鋒山和幸みらいの農業振興課長ご挨拶のあと、中央審査委員会農産・蚕糸分科会の中谷誠主査の選賞審査報告、イカリファームの井狩篤士代表取締役、井狩史子取締役ご夫妻による業績発表が行われ、引き続き、中谷主査の進行により、コメンテーター、業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答が行われました。

シンポジウムには、約80名の皆様にご参加頂きました。（このほか、Web配信では40名を超える皆様にご視聴頂きました。）



パネルディスカッションの様子

シンポジウム出席者（敬称略）

区 分	氏 名	所 属 ・ 職 名 等
業績発表者	井狩 篤士	令和6年農林水産祭農産・蚕糸部門天皇杯受賞 株式会社イカリファーム 代表取締役
	井狩 史子	令和6年農林水産祭農産・蚕糸部門天皇杯受賞 株式会社イカリファーム 取締役
コーディネーター 及び選賞審査報告	中谷 誠	農林水産祭中央審査委員会農産・蚕糸分科会主査 (農研機構副理事長)
コメンテーター	宮武 恭一	農林水産祭中央審査委員会経営分科会主査 (農研機構農業経営戦略部長)
コメンテーター	山屋謙二郎	トヨタ式農家改善.pro 代表 (滋賀県農業経営アドバイザー)
コメンテーター	森野 真	滋賀県農政水産部みらいの農業振興課 地域農業戦略室長
挨拶	島津 久樹	農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課 技術政策情報分析官
	鋒山 和幸	滋賀県農政水産部みらいの農業振興課長
司会・進行	小栗 邦夫	(公財) 日本農林漁業振興会 常務理事

天皇皇后両陛下への拝謁と業績説明

令和6年度の農林水産祭参加表彰行事において、7部門それぞれで最も優秀な農林水産業者として選定され、最高の榮譽に輝いた天皇杯受賞者は、令和7年1月27日（月）に皇居宮殿北溜において天皇皇后両陛下に拝謁し、受賞者の代表から天皇杯受賞に対するお礼言上を行い、天皇陛下から励ましのお言葉をいただきました。



天皇杯受賞者のお礼言上

天皇皇后両陛下への業績説明

拝謁に引き続き、伊藤房雄中央審査委員会会長及び堺田輝也農林水産省大臣官房技術総括審議官のご先導により、両陛下は、多角化経営部門、むらづくり部門、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門の順に、受賞者からそれぞれの業績について説明を受けられました。

各天皇杯受賞者のご説明に対して、両陛下から、展示物に関する技術や経営、生産状況等について多岐にわたるご下問があり、短い時間の中でそれぞれ温かい励ましのお言葉をいただきました。



むらづくり部門の業績説明



農産・蚕糸部門の業績説明

天皇杯受賞者の皇居特別参観・記念撮影

拜謁・業績説明に先立ち、宮内庁担当者の案内により、皇居特別参観が行われ、宮殿と回廊に囲まれた中庭、二重橋、賢所、生物学研究所（水田）、紅葉山御養蚕所等を参観しました。また、皇居宮殿北車寄において、天皇杯受賞者を囲んで記念撮影が行われました。



天皇杯受賞者を囲んで、記念撮影

天皇杯と農林水産祭

1. 天皇杯は、スポーツ及び農林水産業の振興のため、特に業績のあった最優秀者に対して授与されるものであり、現在、30個の天皇杯が宮内庁を通じて所管団体に下賜されています。

2. 昭和37年11月、財団法人日本農林漁業振興会が農林省と共催する農業祭参加表彰行事において、部門別の最優秀者（農産、園芸、畜産、蚕糸、林産、水産）として選ばれた者に対して授与するものとして、6個の天皇杯が宮内庁を通じて、財団法人日本農林漁業振興会に下賜されました。

その後、昭和54年度から、農林水産祭参加表彰行事に新たに加えられたむらづくり部門の特に優秀なものに授与されるものとして、天皇杯が1個下賜されました。

なお、部門名については、現在、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの7部門となっています。

3. 天皇杯は、毎年農林水産関係団体等が「農林水産祭参加行事」として開催する約300の行事において、農林水産大臣賞（約500点）を受賞した者の中から、中央審査委員会の厳正な審査を経て選定されます。



令和6年度（第63回）農林水産祭「実りのフェスティバル」

令和6年度の「実りのフェスティバル」は、令和6年11月1日（金）、2日（土）の2日間、前年度と同様に東京都豊島区の池袋サンシャインシティにおいて開催いたしました。初日の開場に先立ち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご来場され、武村展英農林水産副大臣をはじめとする関係者や各地のご当地キャラ、キャンペーンスタッフ等がお出迎えしました。

令和6年度の7部門の天皇杯受賞者の業績を紹介するコーナーでは、写真パネルをご覧いただきながら、農林水産省の堺田技術総括審議官から両殿下へ天皇杯受賞者の業績のご説明が行われ、引き続き、武村副大臣、堺田審議官、永田信日本農林漁業振興会副理事長ほかのご案内により、政府（農林水産省）特別展示コーナー、地域農林水産展（都道府県）コーナー、農林水産関係団体コーナーをご視察いただきました。

初日は曇り、2日目は雨で、やや天候に恵まれませんでしたでしたが、毎年楽しみにしておられる固定客の来場が多数あったことや他のイベント会場からの人の流れがあったことから、昨年を上回る約20,000人の皆様にご来場いただきました。



天皇杯ご視察



天皇杯パネル

政府（農林水産省）特別展示コーナー



JAS ってなんだろう？



実りをはぐぐむ研究開発



森林に関わり、森林を活かそう



日本の食卓 改良と技術で守ります

内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞の紹介

令和6年度農林水産祭内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の受賞者をパネルで展示紹介しました。



内閣総理大臣賞パネル



日本農林漁業振興会会長賞パネル

都道府県技術・経営普及展コーナー

都道府県の独自性を有する農業技術や特徴ある農林水産物について、10道県の出展により実物、パネル等で展示紹介されました。



地域農林水産展（都道府県）コーナー

全国各地の農林水産物の試食・試飲、販売が行われ、大勢の来場者で賑わいました。出展された29道県のうち、秋篠宮皇嗣同妃両殿下には、北海道、山梨県、新潟県、福井県、愛知県、山口県、香川県、福岡県、長崎県の9道県の担当部長等から出展产品のご説明を行いました。



ご視察：香川県

地域農林水産展（都道府県）コーナー

■ご視察該当県



北海道



山梨県



新潟県



福井県



愛知県



山口県



福岡県



長崎県

■ご視察該当以外の出展道県



岩手県



秋田県



山形県



福島県



埼玉県



千葉県



長野県



静岡県



富山県



石川県



岐阜県



三重県



岡山県



徳島県



高知県



佐賀県



熊本県



大分県



宮崎県



鹿児島県

会場風景



農林水産関係団体コーナー

秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、農林水産関係団体コーナー 10 団体のうち、「中央果実協会」並びに「全国農業協同組合中央会（JAひろば）」をご視察されました。

また、来場者が参加できる体験コーナーやクイズ、試食・試飲が楽しめるコーナーなど各種の展示が行われ、賑わいました。



(公財) 中央果実協会



(一社) 全国農業協同組合中央会（JAひろば）

農林水産関係団体



全国い生産団体連合会



全国食肉生活衛生同業組合連合会



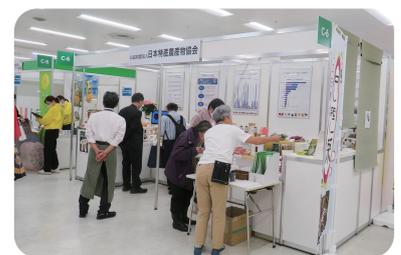
(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会



(一社) 日本経節協会



(一社) 日本畜産副産物協会



(公財) 日本特産農産物協会



(一社) 日本パインアップル缶詰協会



(独) 農畜産業振興機構

体験、ふれあい



体験乗馬



ジャンボうさぎ



ご当地キャラ



キャンペーンスタッフ

農林水産物の贈呈

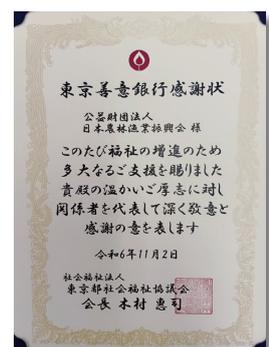
◆贈呈ご協力道県・団体◆

農林水産祭を祝い、実りの喜びを分かち合うとの趣旨で、6道県・2団体から提供された物品はフェスティバル終了後、東京善意銀行を通じて、福祉施設に贈呈されました。

これに対し、社会福祉法人東京都社会福祉協議会から令和6年11月2日付けで（公財）日本農林漁業振興会に対して感謝状が贈られました。これらは、ひとえに農林水産物をご提供いただいた皆様のご協力によるものであり、深く感謝申し上げます。



北海道（JAグループ北海道（北海道中央会・北海道信連・ホクレン・北海道厚生連・共済連北海道本部）、秋田県（全農秋田県本部）、山形県、山梨県（JAグループ山梨、山梨県農畜産物販売強化対策協議会）、静岡県（静岡県椎茸産業振興協議会、静岡県温室農業協同組合）、大分県（大分県椎茸振興協議会、豊後別府湾ちりめん協議会）、JA全中、全国花みどり協会（日本花き生産協会、日本花き卸売市場協会、全国花卸協会、日本生花商協会、日本インドア・グリーン協会、JFTD、日本いけばな芸術協会、花の国日本協議会）（順不同）



農林水産祭事業の概要

目的は

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と（公財）日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施しています。

事業は

優秀農林水産業者に対して下賜された天皇杯等の授与と収穫を感謝する「農林水産祭式典」（毎年11月23日に開催）と優秀農林水産業者の技術・経営の紹介、農林水産物の展示・即売等を中心とする「実りのフェスティバル」の2本柱で行われています。

実施体制は

農林水産祭を推進するための農林水産祭実行委員会、農林水産大臣賞の受賞者の中から特に優秀なものを天皇杯等三賞受賞者として選定する農林水産祭中央審査委員会等、多くの関係者の協力の下で実施しています。

財源は

国の補助金のほか、都道府県の負担金、農林水産関係団体の寄付金、経団連関係団体・企業の寄付金等、多くの皆様のご協力をいただいています。

内閣総理大臣賞と日本農林漁業振興会会長賞



内閣総理大臣賞は、農林水産祭における三賞のひとつで、天皇杯・日本農林漁業振興会会長賞と同様に過去1年間に農林水産大臣賞を受賞された約500の出品財の中から、中央審査委員会における慎重かつ厳正な審査を経て部門毎に決定される大変名誉ある賞です。農林水産祭では昭和52年度の第16回から授与されています。



日本農林漁業振興会会長賞は、農林水産祭における三賞のひとつで、天皇杯・内閣総理大臣賞と同様に過去1年間に農林水産大臣賞を受賞された約500の出品財の中から、中央審査委員会における慎重かつ厳正な審査を経て部門毎に決定される大変名誉ある賞です。天皇杯とともに昭和37年度の第1回から授与されています。

公益財団法人日本農林漁業振興会

昭和37年に農林水産祭（当時は農業祭）が国民的行事として実施されることになった際に、全国の都道府県や農林水産関係団体などの幅広い協力を得るための中心的な存在として設立されました。優秀な農林水産業者を表彰するため、宮内庁から天皇杯を下賜された団体であり、農林水産祭とは密接かつ不可分な組織です。

close-up

農林水産祭（通巻 第137号）

発行所 公益財団法人 日本農林漁業振興会

令和7年3月

本誌に掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。
令和7年度の農林水産祭スケジュールにつきましては、
本会ホームページ等でお知らせする予定です。

〒104-0045 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル4F
TEL : 03(6441)0791代 FAX : 03(6441)0792
URL : <http://www.afskek.jp>